



## 理事長挨拶

本年最後の御挨拶をお届けします。当会は先人達の御努力により築かれてきた我国の文化、伝統を大切にして次世代に継承する事を活動の基本としており、世界的な広い視野から我が国の文化の特質を理解する努力の一環として、定例会の講師には諸外国の大使をお迎えしてそれぞれの国の文化を理解する努力をしているところです。今後も我が国の歴史を大切にしつつ、広い視野から世界の人達の期待に応えられる我が国の進むべき道を目指して皆様と共に努力して行きたいと考えます。来る新年が会員の皆様にとって実りある良い年となる事をお祈り申し上げます。

理事長 大橋武郎

## 第113回定例会

講 師：「終戦80年に考える国防と国体」

演 題： 久野 潤 日本経済大学准教授

日 時 令和7年7月26日（土） 14時～ 場 所 東銀座「サロンドジュリエ」

今回は、国防との関連で、我が国の根幹であります皇室に関する講話です。皇室典範第1章第1条「皇位は、皇統に属する男系がこれを継承する。」と明記されていますが、現在の皇族の減少を名目として、政界においても言論界においてもこの皇室典範の改正、またはこれに類する言論がなされています。今回の定例会においては、この問題の本質に関して多くの日本国民に理解を深め、正しい見識を持って頂くために、学界やメディアで偏向的な知見が蔓延している大東亜戦争、特に沖縄戦など国防の歴史に対する然るべき見方と併せて分かり易く解説して頂きました。

### 講師略歴

昭和55年大阪府生まれ 慶應義塾大学総合政策学部卒業

京都大学大学院法学研究科国際公共政策専攻修了

専門の政治外交史研究と併せて、全国で神社や戦争経験者調査・取材 単著に『帝国海軍と艦内神社』『帝国海軍の航跡』など、

共著に『決定版 日本書紀入門』『日米開戦の真因と誤算』など、

産経新聞「正論」欄執筆メンバー



## \* 夏越の大祓



## \* 硫黄島の戦い

硫黄島上陸（2月 19日）

アメリカ側攻略部隊 11 万名

日本側守備隊 2 万 3000 名

昭和 20 年（1945）硫黄島上陸  
(2月 19 日) 慰靈顕彰





(『ルーズベルトニ与フル書』より)

卿等ノ善戦ニヨリ、克ク「ヒットラー」總統ヲトスヲ得ルトスルモ、如何ニシテ「スターリン」ヲ首領トスル  
「ソビエットロシヤ」ト協調セントスルヤ 「ほんまの敵は共産主義!!」

栗林忠道司令官(硫黄島) 「國の為 重き務を 果し得て矢弾尽き果て 散るぞ悲しき」

硫黄島の守備隊が 40 日間もちこたえたおかげで、40 日分本土の命が助かった

\* 沖縄戦の歴史認識

4月1日 沖縄上陸

アメリカ側攻略部隊 55万名

沖縄諸島

日本側守備隊 12万名

(鈴木貫太郎首相)

「今日、アメリカがわが国に対し優勢な戦いを展開しているのは、亡き大統領の優れた指導があったからです。私は深い哀悼の意をアメリカ国民の悲しみに送るものであります

ルーズベルト氏の死によって、アメリカの日本に対する戦争継続の努力が変わるとは考えておりません。我々もまたあなた方アメリカ国民の霸権主義に対し今まで以上に強く戦います」



情報戦 ⇒歴史認識問題

総力を挙げて沖縄へ特攻攻撃!!

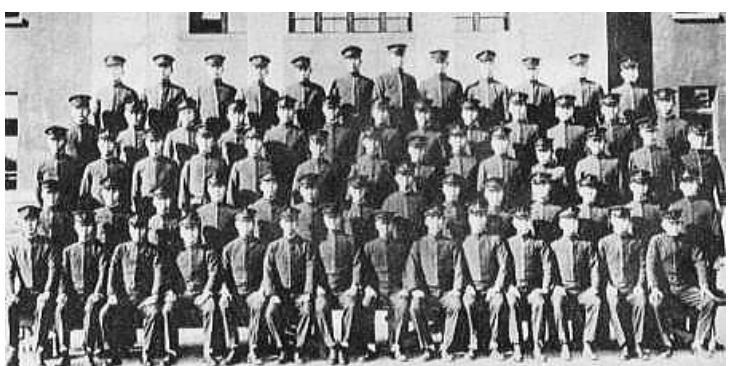


戦艦「大和」

沖縄特攻作戦=「菊水作戦」

少尉候補生

(海軍兵学校 74期／経理学校 35期)



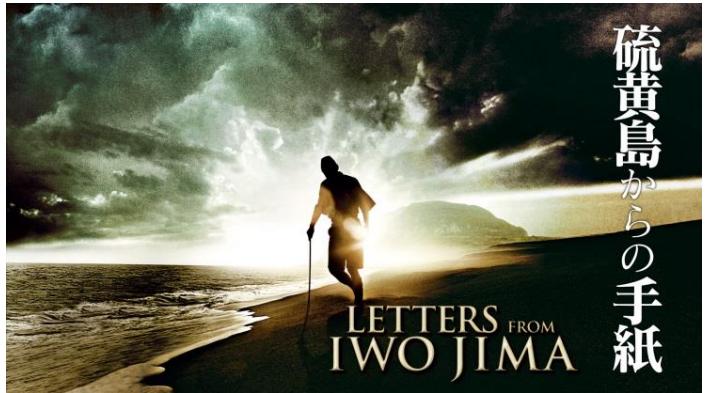
「徳之島ノ北西洋上、「大和」轟沈シテ巨体四裂ス  
今ナオ埋没スル三千の骸 彼ラ終焉ノ胸中果シテ  
如何」「至烈ノ鬪魂、至高ノ鍊度、天下ニ恥デザル  
最期ナリ」

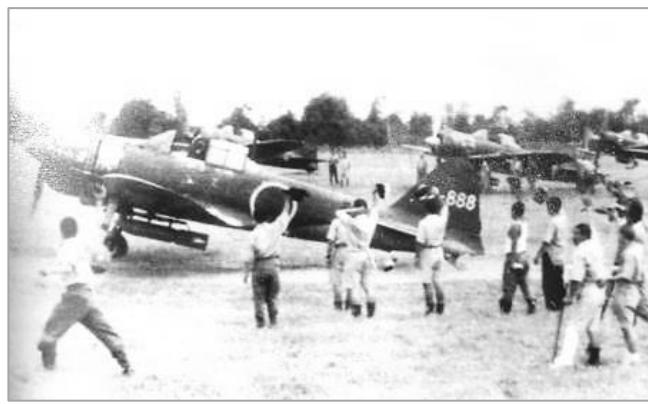
日本の正道を示し、後世に継承させる

七生滅敵 (七生報國)

鹿屋基地 (海軍)

硫黄島からの手紙





特攻機  
戦死搭乗員  
1800機  
2600名

・牛島満司令官（沖縄） 「矢弾尽き天地染めて散るとしても魂還り 魂還りつつ 皇國護らむ」  
天皇と国民で沖縄を 守り続けた

#### \* 皇位の男系継承

父親だけを遡って初代神武天皇にたどり着くのが「皇統」である以上、「女系天皇」など論理的に存在しえない。  
皇室 男系継承という皇室の安泰を信じて出征

皇室の存続を願い、英靈に敬意と感謝を捧げる立場をとるならば、皇位の男系継承という建国以来の大前提を、この節目の時機に改めて虚心坦懐に共有することを求めたい（正論より）



天皇  
(君主)  
軍隊 国民  
(防人/自衛隊)



国体

沖縄戦全戦没者慰靈祭



## 質疑応答



## 懇親会



## 第46回研修会

航空自衛隊入間基地所在 航空医学安全研究隊

日 時：令和7年10月22日（水） 場 所：入間基地

10月22日は朝の内は少し霧雨もありましたが、すぐに曇り空になり建物内の研修には程よい状況でした。総勢31名の研修団は、航空医学安全研究隊の施設で当初基地業務担当部隊の中部航空警戒管制団、副司令による航空自衛隊及び入間基地の全般説明を受け、その後2個班に分かれて部隊の丁寧な説明を受けました。航空医学安全研究隊は航空医学及び心理学上の各種調査研究並びに航空安全に関する各種調査研究、対策等に関する業務を任務としています。実際には操縦者作業負担度測定装置、低圧訓練装置、射出座席訓練装置及び遠心力発生装置等各種装置を管理運営しています。他の施設では見られないものを今回は我々に特別に見学させて頂きました。加えて、部隊研修後は入間基地の隊員と同じ美味しい昼食の体験喫食を経験しました。



## 航空医学安全研究隊

航空医学安全研究隊は、航空自衛隊入間基地に所在する部隊で、航空医学、心理学、および航空事故防止に関する調査研究を行っています。

基地稻荷山門

## 役割と活動

- ・航空機搭乗員の安全確保:

戦闘機パイロットのように、高速・高機動の航空機に乘る搭乗員は、急加速や急旋回などによる身体的負担が大きいです。当部隊は、このような身体的負担から搭乗員を守るために、医学的見地から研究や実験を行い、パイロットの健康管理に貢献しています。

- ・調査研究と訓練:

航空機が飛行する際に人体に起こる様々な生理現象を調査・研究しそれを克服するための訓練を実施しています。航空医学適合評価や航空生理訓練、飛行安全に関する資料収集や教育も行っています。

- ・保有する設備:

日本国内最大規模の低圧訓練装置などを保有しており、搭乗員は入間基地で様々な訓練を受けます。

- ・情報提供: 「乗務員の健康管理サーキュラー」などの冊子を発行し、航空身体検査の内容やマニュアル、指定機関リストなどを公開しています

## 組織としての変遷

この部隊は、以前「航空医学実験隊」という名称でしたが、航空安全管理隊と統合され、2025年3月24日に「航空医学安全研究隊」として新編されました。統合の目的は、航空医学と心理学に関する調査研究、および航空事故防止に関する調査研究を連携させることで、機能強化を図ることです。

### 全般説明 航空自衛隊及び入間基地の全般説明



### 低圧訓練施設: この部屋の中の空気を抜いて気圧を低くする訓練室





コントロールルーム



懇切丁寧な説明



酸素等の供給装置



集 合 写 真

### 見学された方の声

- 素晴らしい見学ツアーでした。案内、説明して頂いた、若い方々が皆さん、どんな質問にも誠意を持って解答してくれました。施設・設備の中身も非常に勉強になりました。  
食事のカモ南蛮スープがとりわけいい味でしたね。最後バスで基地1周して頂いたのもよかったです。  
理解が更に深まりました。

沼田 金之

- 入間基地は、広い！然し米国の基地や演習場の広さに比して天と地。自衛隊は米国の基地を借りて演じている状況。防衛問題は喫緊の課題です。まず兵器の開発！今年もノーベル賞を二つも受賞しているんです。学術会議の様な頓珍漢は必要有りません。優秀な頭脳を平和のための軍需産業に投資すべきだと思います。自衛隊の定年も直ぐに60歳ないし65歳へ延長し部門、能力によっては70歳まで延長すべきでは？そして自衛隊員の昇給、恩給等の即時実施。サイバー攻撃対策、中国人による経営管理ビザ、葬儀場、宗教法人の買収禁止、特に基地周辺の土地は強制的に没収する法律を作るべきです。憲法九条の改正を始め

とする、憲法改正を急ぐべきです。700人以上の国会議員は必要ありません。特に参議院！無駄な歳費を削って防衛予算に回すべきです。近隣諸国は支那、朝鮮、ロシア…国際法違反の悪い国ばかりです。自衛隊の皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

会員 池田 清光

- ・「この度、入間基地見学に参加させて頂き、自衛隊の皆様に日本国民として護られていることを実感し、国防について考えるようになりました」。

あやめ会 岩井 ゆう子

- ・ 2025年10月22日水曜日 航空自衛隊入間基地の航空医学安全研究隊の研修会に参加した。第一線の現場を陰で支える所謂「縁の下の力持ち」の部隊である研究隊を訪問させていただいた。航空医学安全研究隊は航空安全、航空医学、航空生理訓練部等多数の組織で構成されている。騒音に関する研究では反響実験室にて実際の飛行時の騒音を作り出し、遮音性能を測定する研究や、航空安全研究部ではPOWERS(操縦者作業負担度測定装置)というモニター式のシミュレーターを用いたパイロットの操縦時の生理データの解析の研究、航空生理訓練部では低圧訓練装置を用いた高々度飛行が人体に及ぼす影響と対策、酸素マスク等の取扱い方法の訓練、そして遠心力発生装置を用いた高G環境の対処法を習得するための訓練装置は圧巻であった。当該研究隊があるからこそ、第一線の現場が成り立っていること、また日本の安全を根本から支えてくださっている奥深さを垣間見ることのできた非常に貴重な機会であった。

今般、インバウンドとSNSの影響により日本の治安の良さや街の清潔さなどが世界中で注目を浴びる様になっているが、安全や清潔なことは決して「タダ」ではなく、日本人がこれまで努力し、積み上げきた成果であり、誇り高き事である。この素晴らしい日本を継続、継承していくことに微力ながら貢献していくたいと改めて考えさせられる機会ともなった。今回この様な貴重な機会を設けてくださった事務局の皆様、また航空自衛隊OBの方々そしてご対応くださった航空自衛隊入間基地の皆様に感謝を申し上げます。ありがとうございます。

佐藤 紀子

## 第114回定例会

演題 「国交70周年を迎えるモロッコと日本の友情」

講師 ラシャッド・ブフラル 駐日モロッコ王国特命全権大使

日時 令和7年11月22日(土) 13時~ 於: 銀座サロン・ド・ジュリエ

今回は当会の定例会に初めてアフリカ大陸から講師をお招きしてお話を頂きました。我が国とは地理的に遠いモロッコ王国につき日本人一般には映画「カサブランカ」同「モロッコ」での外人部隊などに限られた、しかし郷愁を誘う知識しかありません。本公演に於いては駐日特命全権大使のラシャッド・ブフラル閣下の9年余に及ぶ日本滞在のご経験から近来のモロッコと我が国の歴史・文化・習慣の相似点、相違点、現在の交流状況等他では聞く事のできない大変興味深く有意義なお話を頂きました。又最後には大使のご厚意によりワインやアルガノイルを含むモロッコ特産品5点をくじ引きでプレゼント頂き参加者を大いに喜ばせて頂きました。

「大使のご講演をお手伝い下さったベルバシール参事官と通訳下さった大和田恭代大使補佐に厚くお礼申し上げます。」

以下はそのレポートです。



講師略歷

1951年8月26日生まれ

1976年 フランス商業・経営大学院(ESC)でMBA取得

貿易産業省、財務省を経て、外務協力省

1996年 駐EU・ベルギー・ルクセンブルクモロッコ王国特命全権大使

1999年 外務協力省事務次官

2004年 駐独モロッコ王国特命全権大使

2011年 駐米モロッコ王国特命全権大使

2016年より現職

ご講演内容

「国交70周年を迎えるモロッコと日本の友情」

- \* モロッコは地理的には古代カルタゴの末裔、8世紀にイスラム化し王朝が続いたが17世紀現アラウイ王朝となる。20世紀初めスペイン、フランスの保護領となり1956年に独立した。日本は古来「日の出る国」として知られるがモロッコはヨーロッパ・アフリカ大陸の最西端に位置し「日の没する国」として知られる。

**モロッコ王国**

アフリカ北西部に位置し、ジブラルタル海峡をはさんで欧州まで14キロ

モハメッド六世国王陛下を国家元首とする立憲君主制

人口： 約3,800万人

平均年齢： 29.1歳

公用語： アラビア語・アマジグ語  
フランス語も広く通じる

宗教： 多くはイスラム教（スンニ派）  
信教は自由

- \* 余り知られてはいないがモロッコと日本には多くの共通点がある。

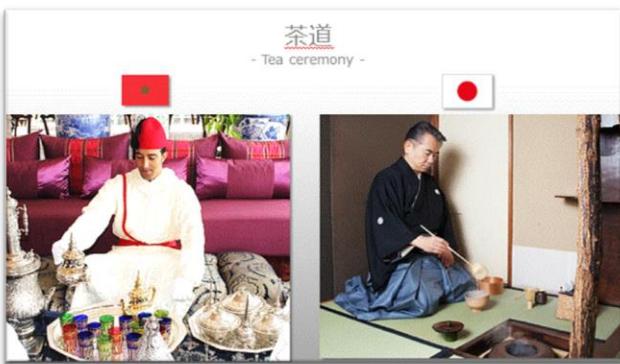
以下 写真（皇室、首都移転、茶道、書道、温泉、鍋料理 等）

国家元首に頭を垂れる等、伝統的な礼節を重視します

The slide features a title '首都 Capital Cities' at the top center. Below it are six pairs of images arranged in two columns. The left column contains images of Marrakech, Fes, and Meknes. The right column contains images of Kyoto and Nara. Each image is accompanied by its respective city name below it.

City	Image Description
Marrakech	A view of a traditional Moroccan building with multiple arched doorways and a red flag above.
Fes	A view of a large, open square with a fountain and palm trees in the background.
Meknes	A view of a traditional Moroccan building with a large arched entrance and a red flag above.
Rabat	A view of a traditional Moroccan building with a large arched entrance and a red flag above.
Kyoto	A view of a traditional Japanese building with a red roof and white walls.
Nara	A view of a traditional Japanese building with a red roof and white walls.

日本で「奈良・平安京・東京」と遷都されたようにモロッコでも3度首都が代っています



モロッコでは日常的にミントティーを楽しめます



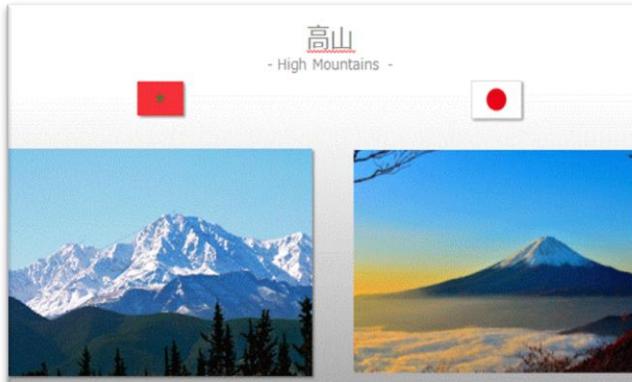
アラブ文字は習字も重視されます



公衆浴場の文化も同様



モロッコ料理も日本料理もユネスコ無形文化遺産に登録は「鍋」を意味し、タジンで作ったお料理もタジンといいます



日本の「富士山」と同じようにモロッコでは「トゥップカル山」が誇りです



伝統衣装を大切にする文化

- \* モロッコは再生可能エネルギーに力を入れており、2030年までに電力供給量の52%、2050年までに82%を再生可能エネルギー由来にすることを目指している。2030年に向けて設定された目標は前倒しで達成する見込みである。
- \* 2018年にはアフリカ大陸初の高速鉄道が開通した。ヨーロッパとわずか14キロの海峡を隔てるモロッコ最大の貿易港があるタンジェ、首都ラバト、カサブランカを結ぶTGV方式の高速鉄道は工期7年で開通。現在、カサブランカ～マラケシュ間の延伸工事が行われている。
- \* モロッコは1975年までスペインの支配を受けていたサハラ地域を巡る領土問題を抱えていたが、昨今欧米諸国は同地域の領有権がモロッコに帰属することを認め、最新の国連決議により同地域は「モロッコ主権下での自治」という、モロッコの提案に基づいた解決に向かっている。



## 質 疑 応 答



懇 親 会



## 忘 年 会

場 所 居酒屋 「北海道」 飯田橋駅 隣り

時 間 2025年 12月 20日 16時～18時

本年の活動を振り返り来年の活動について、ご希望や更なる展望を皆様と親しくご懇談する機会を企画



いたしました。「日本を護る会」の今年1年の諸々な活動は順調に進捗できたと思います。



皆様同士の楽しいお話で有意義な忘年会となりました。

来る新年もさらに前進を目指して活動致したく思っています



# 事務局からのお知らせ

- \* 当会の理事として貢献された矢島寛三理事が去る 11 月 5 日に逝去されました。ここに謹んでお知らせ致します。
- \* 会の運営は年会費と定例会の収入に委ねられています。本年度の会費を納めていない方は早急にお振込みいただくようにお願いいたします。また皆様の定例会への積極的なご参加と共にご友人などを誘いいただくよう更なるご協力を願いいたします。
- \* 事務局ではサポートをして頂ける方を探しています。どんなことでもお手伝いが頂ければ大変助かります。そのご意思がおありの方は是非事務局にご一報ください。  
ホームページ、フェイスブックの扱いなどが得意な方は大歓迎です。

## 今後の予定

### ◆令和 8 年新年の昇殿祈祷

日時： 1 月 10 日(土)13 時  
場所： 神楽坂 赤城神社

### ◆第 115 回定例会

日時： 2 月 21 日 (土)  
場所： 東銀座 「サロン・ド・ジュリエ」  
講師： 東条英利 氏

### ◆第 116 回定例会

日時： 3 月 28 日 (土)  
場所： 東銀座 「サロン・ド・ジュリエ」  
講師： サン・マリノ共和国特命全権大使  
マンリオ・カデロ閣下

日本を護る会・レポート 第 57 号 令和 7 年 12 月発行  
編集発行：認定特定非営利活動法人 日本を護る会

ホームページ：<http://awake-japan.sakura.ne.jp>  
E-mail : [awake-japan@googlegroups.com](mailto:awake-japan@googlegroups.com)